



2学期スタートしました！

41日の夏休みが終わり、2学期がスタートしました。子どもたちの元気な笑顔を始業式に見られて、とてもうれしく思いました。また少し成長した姿に2学期の様々な行事でグングン伸びてくれるのではないかと期待感も感じました。2学期もこれまで以上にご家庭でのご協力をよろしくお願いいたします。

さて、2学期は、5年生は自然学校、6年生は修学旅行、3年生は市内巡り、環境体験学習、4年生は社会見学、1、2年生は校外学習、そして音楽会と学校行事・学年行事がたくさんあります。学校では感じ取れない様々な体験・学びが待っています。その場所でしか分からないことを五感で感じ、知識や経験を増やしてほしいです。保護者の皆さんには、当日のお弁当やお茶などの準備にお手間をおかけしますが、どうぞよろしくお願いいたします。



9月は節目の月です。

9月には様々な日が設定されています。9/1は防災の日(関東大震災)、9/21は敬老の日、9/23は秋分の日。それ以外に各地方で収穫祭が行われます。また、中秋の名月が中旬ごろ満月の少し前(今年は9/25)にお月見として全国各地で、ススキや月見団子を飾って収穫に感謝する日があります。田んぼの穂の刈り取りもこの時期に行われ、春から育ててきたコメも収穫される区切りの月です。つまり9月は様々なものに感謝したり、区切りをつける節目の月と言えるのです。

節目=新しいスタートとも言えます。子どもたちは1学期で学んできたことを2学期では実践に移す期間となります。多くの学校行事・学年行事、学習内容もより実践を重視した取り組みになります。これまで学んだことが実践でどう活かせるのか、活かすためにどう取り組むのかなど、失敗などを重ねながら成長する時間です。うまくいく時は大いにほめてあげてください。うまくいかない時があっても落ち込むこともありますが、「失敗は成功のもと」次にどうしていくかを考えるチャンスとしてもらいたいです。



9月8日(火)は人権参観日！多くの参加をお待ちしています。

9/8(火)に人権参観日を行います。子どもたちが「道徳」の授業で、どのような教材で、道徳心へのアプローチをしているか、自分自身がどのように考え、今後活かそうとしているかを見てもらえる機会です。先生たちもこの日に向けて夏休みに研修を重ねてきました。子どもたちの様子を見ていただくだけでなく、保護者自身にも問いかける機会となりますので、ご参加いただくとありがたいです。また授業後、家庭児童相談室の方から子どもの権利、子育て支援についての講演会もありますので、日ごろの子育てについての振り返りなどの機会にしていいただければと思います。

<9月の予定>

弥生小学校 2026年度 9月 学校行事予定

日	曜	学校行事	給食	日	曜	学校行事	給食
1	火	給食開始日 1～3年身体測定 4校時(13:30)下校 学校司書 ALT	○	16	水	1年短縮5校時(14:10)下校 定時退勤日	○
2	水	4～6年身体測定 1・2年短縮5校時(14:10) 下校 3～6年5校時(14:30)下校 定時退勤日	○	17	木	14:15下校 学校司書	○
3	木	1・2年短縮5校時(14:10)下校 3～6年5校時(14:30)下校 学校司書	○	18	金	1年短縮5校時(14:10)下校 外国語S	○
4	金	1・2年短縮5校時(14:10)下校 3～6年5校時(14:30)下校 外国語S	○	19	土	休業日	
5	土	休業日		20	日	休日	
6	日	休日		21	月	敬老の日	
7	月	学団朝会 14:15下校 一斉終会	○	22	火	国民の休日	
8	火	人権参観日・講演会 14:30下校 学校司書 ALT	○	23	水	秋分の日	
9	水	1年短縮5校時(14:10)下校 定時退勤日	○	24	木	5年自然学校① やよい読書の日 学校司書	△
10	木	1年短縮5校時(14:10)下校 SC 学校 司書	○	25	金	5年自然学校② 外国語S	△
11	金	1年短縮5校時(14:10)下校 外国語S	○	26	土	5年自然学校③ 休業日	
12	土	休業日		27	日	5年自然学校④ 休日	
13	日	休日		28	月	5年自然学校⑤ 14:15下校 一斉終会 (1～4年、6年)	△
14	月	14:15下校 一斉終会	○	29	火	5年生代休日 1・2年校外学習(神戸 どうぶつ王国) 学校司書 ALT	△
15	火	1年短縮5校時(14:10)下校 学校司書 ALT	○	30	水	5年生代休日 3年生市内巡り(モリ タ、パスカ三田他) 定時退勤日	△

まだまだ暑い！熱中症にご注意を！

比較的涼しい日もあった夏休み。しかしながら急に暑い日もあってまだまだ過ごしやすい時期ではありません。9月に入ってもまだまだ暑い日が続きます。熱中症に十分気を付けていただきたいと思います。

○水分を補給する

学校ではこまめな水分補給をするよう声かけします。お茶を多めに持たせてください。のどが渇く前から、こまめにお茶や水などで水分補給しましょう。

○帽子を被る

直射日光を避けるため帽子を着用させてください。登下校時や屋外の授業、外遊び等帽子をかぶります。服装も軽装で、素材も吸湿性や通気性のよいものを着用願います。

○汗をこまめに拭く

汗をこまめに拭くように促します。汗拭きタオルを持たせてください。タオルを水で濡らして首や手足を拭いたり、アイスタオルやアイスバックで首周りを冷やしたりする等、体調に合わせて使用してください。

負けから学ぶこと ～校長の独り言～

今年も暑い夏がやって来ました。夏と言えば高校野球「甲子園」。各県の代表が頂点を目指す戦い。今年も筋書きのないドラマが繰り広げられました。素晴らしいプレーやアウト・セーフのきわどいプレー。両チームとも「負けたくない。勝ちたい。」の一心で全力プレー。その姿は本当に感動させられます。そして最後のプレーで勝敗が決まり、勝ったチームは大喜び。その反面負けたチームは悔し涙を流し、甲子園の土を集める姿。そんな姿を見ると部活動の顧問をしていたころを思い出します。



勝負は紙一重

私が顧問をするまでは、その女子ソフトテニス部は試合の相手に「ラッキー〇〇中や!」と言われてしまう弱小チームであった。前の顧問の先生はソフトテニスの技術を教えることなく、生徒たちにやりたいように部活動をさせていた。隣でサッカー部を指導していた私は、女子ソフトテニス部（※以後女子テニス部）の練習を見かけては目を覆うほど、練習になっていなかった。これまで関わったことのないスポーツを任せられて大変な教員であるが、生徒もそのような顧問になると不幸である。

4月。顧問が異動し、私が生徒の前に立った時、生徒たちは目をキラキラと輝かせていた。というのも昨年までテニスコートの隣でサッカー部を受け持っていた私（県大会上位へ顔を出し、練習試合も月に2, 3回他校に出かけ、合宿も行っていた）が顧問になったからだそう。



早速、過去のつてを使って練習試合を申込み、貸し切りバスで相手校へ向かった。バス内で中学3年生のテンションがすごく高くて驚いた。「どうしたの?」と尋ねると、「3年間で初めて市外へ練習試合に行くんです!!」と興奮気味に話した。（そうか…かわいそうに、これまでまともに「部活動」をしてこなかったんだね…）帰りのバスの中でキャプテンに「夏までの約4か月間、**ザ・部活**っていう程の部活をやるか?」と声をかけた。隣に座っていた副キャプテンも目をランランと輝かせながら大きく首を縦に何度も振った。

次の日ミーティングを行った。「先日、キャプテンに引退まで一生懸命部活動をしたいかと話をした。「したい!」と言われたので、今日から指導していく。ただ、全員がそんな思っているかどうか分からないが、残りの時間で部活動ってこういうものか…と体験してみないか?」と3年生に話をした。

答えはすぐに出た。そこから基礎練習から朝練、放課後練習のメニュー等大幅に変更した。また練習試合や合宿も行い、これまでとはまったく違った気合の入った部活動となった。

7月。3年生にとっては最後の公式戦（総体）を迎える。去年は団体も個人も1回戦負けだったそう。「君たちはこの3か月間基礎練習をとことんやって来た。試合の中で**自信をもってその努力を発揮**してほしい。**負けたら…失敗したら…**と思うがもう後がない。**歯を食いしばって**成功を思って打ち込むしかない。**勝負とは紙一重!**その差で勝つ、負けるが決まる。思い切って打ち込んでアウトだったら、すがすがしく悔しがる。ビビってミスして終わるのは本当に後悔するから。」と話をした。

団体戦。これまで1回戦負けのチームが勝ち上がり、ついに次の丹有大会出場をかけた試合となった。3組対戦の団体戦。2勝したチームが勝利の試合で1対1。最後のペアが最後のゲーム6対2であと1点取れば勝ちという状況だった。相手のサーブがラインぎりぎりに落ちた。審判は「フォルト」をコールした。すると相手チームの顧問が審判に「今の入っているやろう!」と叫んだ。すると審判は「イン」とオーバーコール。結局負けてしまった。

子どもたちは審判と相手顧問への抗議の声を上げた。確かに言いたいことも十分にわかるが、子どもたちを集め、話をした。

部活動…特に運動部において、この夏に「勝って終わる」チームは全国に1チームである。つまり1チームを除くその他のチームは**必ず「負けて終わる」**のだ。部活動の顧問をするということは「最後に負けて」3年生と別れることになるのです。その別れの場面で、何を話し、何を学ばせるのかが部活動の顧問に課せられた責務だと思う。

「最後、あと少しで勝ちに手が届きそうだったね。相手のサーブのジャッジ、紙一重だったね。判定が覆ってすごく悔しいだろう。でもその前の場面でゆるい優しい簡単な返球が来たのに、ビビって軽い返球をしたよね?なぜいつも通り自信をもって打たなかったの?みんなは審判のオーバーコールで流れが変わったというけど、その前のビビって返球したことで相手は思い切り打ち込んで得点した。ここが変わり目だったと思うよ。「勝負は紙一重」あのサーブは入っていなかったかもしれない。けど、これまでの練習では、ライン近くのサーブは審判のコールを聞かずに打ち返しなさいと言ったよね。あの瞬間「外れて!」ってみんなも思ったんじゃない?コールされる前に、紙一重のアウトに期待して、いつもの返球を忘れてしまっていたよね。いつも通り打ち返して相手コートにしっかりと決めていたらどうだろう?審判はフォルトをインと言い直したかな?相手の先生も叫んだだろう?確かに「**勝負は紙一重で決まる**」けど、**本当の勝負は「決めるときに決められるか」**なんだよ。」3年生は泣きながら、けど何も言わず話を聞いていた。

「これまで大会に出ても「ラッキー!」と言われていた君たちが丹有大会出場を争うチームになったことはすごいことだよ。ただ「勝負は紙一重」という試合の**経験が少なかった**のかな。悔しいだろう。だけど君たちは人生において大きな学びを得たんじゃないかな。まだ個人戦が残っている。この**悔しい経験を次に活かさない**ともったいないぞ。」3年生はすでに泣いていなかった。口をぐっと一文字に結び、個人戦に向けての決意を固めているようだった。

次の日の個人戦。学校からは7組が出場した。7組中4組が丹有大会出場をかけた試合に臨んだ。これまで1回戦負けの3年生の活躍に他校の選手も驚いていた。結果は残念ながら1組だけが丹有大会の出場を決めた。この1組はキャプテンと副キャプテンのペアで、4月に出会ったときは部内でも実力を下に見られ、新人大会（3年生が引退したあとの新チームの大会）出場の7組に選ばれなかったペアだった。このペアが出場を果たしたとき、内心ホッとした。キャプテンと副キャプテンとは顧問と距離が近いので、「ビビらずに打ち込め」と他部員の手本となるよう徹底的に指導した。時には小雨の降る中、泣きながら「**紙一重の勝利に向けて**」ラケット振って努力を重ね練習していた二人だった。

次の丹有大会は2回戦で敗退。相手の実力が上回り、打ち込んでも打ち返された。力の差を見せつけられたが、終わった二人の表情はとても明るくすがすがしかった。これまで頑張ってきたことをやり切るこの大切さを十二分に感じてくれたに違いない。最後は**後悔のない、澄んだ「ありがとうございました!」**と声を合わせて挨拶し、会場を去っていった。

「負けたら終わり」ではない。勝って得るものもあるが、**負けても得るものはある**。夏の高校野球はいつもそのことを思い出させてくれる。自分の人生を振り返っても失敗や間違いの方が多い。成功・正解の学びより、失敗や間違いの方が身に染みて学んだことが多いと思う。画面の中で涙している高校生もこの負けから多くのことを学んでほしいと思うと、心から「よく頑張った。これからも頑張れ!」と拍手を送りたい。

あれから10年。生徒たちが今どこで何をしているかは知らないが、あの負けから多くのことを学んでくれたと思う。そしてその学びを次に活かし、またその経験を次の世代につなげてくれることを願っている。

